



# 平成31年度 さいたま市立谷田小学校経営方針

～子どもたちの未来のための PLAN THE NEXT「3つのG」で日本一の教育都市へ～

## I 校訓、学校教育目標

### 【校 訓】

かしこく(知)      なかよく(徳)(コミュニケーション)      たくましく(体)

### 【学校教育目標】

進んで学ぶ子      たがいに助け合う子      力いっぱいやりぬく子

## II 目指す学校像

### <希望にあふれ、明るく温かな学校>

- 活力に満ちあふれ、学ぶ楽しさ、ふれ合う喜びがある学校
- 児童一人ひとりを大切にする学校
- 環境整備の行き届いた安全で美しい学校
- 保護者や地域から信頼され、協働して児童の成長を支える学校

## III 「谷田小すこやかプラン」(経営の重点・努力点)

目指す児童の姿を具体的にイメージできるよう「ニコニコ ハキハキ テキパキ」という合言葉を設定し、学校教育目標の達成と目指す学校像の実現に向け、以下の「3つのG」とそれを推進する教職員組織のチーム力を経営の重点・努力点とし、児童の成長の姿をもって成果が見える学校経営を推進する。

## 1 Grit: やり抜く力で真の学力を育成する

- (1) 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の充実
- (2) 基礎学力の確実な定着と体力の向上

- ① 立腰を定着させ、規律と集中力を高め、さいたま市の「よい授業」を実践する
  - ・朝の健康観察の時間を立腰タイムとし、よい姿勢が身に付くよう機会あるごとに指導して、集中力や持続性を高める。
  - ・さいたま市が推進する「よい授業」を実践し、改善を図りながら、「わかる授業」「できる授業」「伸びる授業」に取り組む。
- ② 学校課題研究を通して「主体的・対話的で深い学び」を追究し、国語科教育を推進する
  - ・国語科の研究を通して、児童が主体的に活動し、協働的に問題や課題に取り組み、学びを深める授業づくりを推進する。
  - ・話す力、聴く力、読む力、書く力を中心に、基礎学力の定着を図る。
  - ・日々の教材研究を通して、指導方法や教材教具等を共有し、授業の質を高める。

- ③ 指導方法を創意工夫し、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る
  - ・具体的な活動や体験、ICTや教材教具の活用、ペア学習やグループ学習など、指導方法の工夫改善を図って、日々の授業を実践する。
  - ・児童の実態や学習内容に応じて、T・T（チーム・ティーチング）や専門性の高い外部講師を招いての授業、少人数指導や学習ボランティアとの協力による授業等、多様な指導体制による個に応じた指導の充実を図る。
- ④ 朝学習や個別支援学習の充実と家庭学習の促進を図り、基礎的な学習内容の習熟を図るとともに、学習習慣を育てる
  - ・朝学習としてのパワーアップタイムや希望による個別支援学習を実施し、読書算の基礎的な学習内容の習熟を図る。
  - ・家庭と連携して「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習を促進し、学習の習慣化を図る。
- ⑤ 体育の授業や体育的行事の取組を充実させ、体力の向上を図り、生涯体育の基礎を養う
  - ・運動量を確保し、創意工夫を生かした体育の授業の充実に努める。
  - ・体育朝会や元気タイムにおける全校運動等を教育活動に位置付け、外遊びを励行し、全校的な取組を通して体力の向上を図る。
  - ・運動会や持久走記録会、バスケットボール大会やサッカー大会等の体育的行事を通して、運動への関心を高め、主体的に運動に取り組む態度を養う。
- ⑥ 食育や健康教育を通して、健康的な生活態度を育てる
  - ・「めしあがレター」の積極的活用と給食指導、食育の授業の充実を図る。
  - ・保健指導や保健の授業の充実を図るとともに、給食委員会のキラッと点検等の取組等を通して、保健の知識や健康への関心を高める指導の充実を図る。
  - ・むし歯ゼロ運動等疾病治療の促進を図るとともに、家庭との連携による「すくすくのびのび子どもの生活習慣向上」キャンペーンへの取り組みを推進する。

## 2 Global: 国際社会で活躍できる力を育成する

- (1) 豊かな人間性を育てる指導の充実
- (2) グローバル・スタディの充実と国際教育の推進

- ① 道徳教育や人権教育の推進と教育相談の充実を図るとともに、いじめ等の問題への取組を通して、豊かな心の育成を図る
  - ・道徳や「いのちの支え合い」を学ぶ授業、人権週間やいじめ撲滅強化月間などの取組を通して、児童の人権意識を高め、互いを認め合い助け合う態度を育てる。
  - ・「心を潤す4つの言葉」（はい・おはようございます・ありがとうございます・ごめんなさい）をはじめとする「ぼかぼか言葉」を実践する。
  - ・「迅速、誠実、適切、アフターケア」をモットーに親身な対応に努め、教育相談の充実を図る。
  - ・保護者や地域と連携し、日々の生活指導や児童会活動を通して、いじめを「しない、させない、許さない」学校づくりを進め、早期発見と迅速適切な対応に努める。

## ② 「6つの行動目標」の実践を通して、自立と社会生活の基盤をつくる生徒指導の充実を図る

- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」を具体化した「6つの行動目標」を掲げ、毎月の生活目標の取組を通して、実践力を高める。
- ・日常の学校生活や校外学習等の活動を通して、公共施設等の正しい利用やマナー等、集団生活や社会生活の在り方を考え、実践する指導の充実を図る。

## ③ 交流・共同学習と大谷場中学校区の小中一貫教育を推進する

- ・特別支援教育や幼児教育等との交流・共同学習を実施する。
- ・なかよしタイムなどの縦割り活動を通して、異学年交流の充実を図る。
- ・つぼみの日の取組等、大谷場中学校区の小中一貫教育を推進する。

## ④ 心を耕す読書活動の充実を図る

- ・なでしこ読み聞かせの会や図書ボランティア等と連携し、朝の一斉読書や学校公開時の「読み聞かせフェスタ」、読書月間の「どんぐり読書祭り」等の充実を図る。
- ・市立図書館や図書ボランティア等と連携し、学校図書館の整備充実を図る。

## ⑤ G・S（グローバル・スタディ）の充実を図り、外国語に親しみながらコミュニケーション能力を育てる

- ・学年ごとの教材研究を通して、多様な学習活動や教材教具の活用を図り、指導計画に基づく授業の充実を図る。
- ・G・S講師やALTと連携し、個に応じた指導の充実を図る。

## ⑥ 国際理解を深める活動や環境づくりを工夫し、国際教育を推進する

- ・ALTや他の外国の人との触れ合いを通して、国際化する社会への対応力を育てる。
- ・国際教育のコーナーを設置し、諸外国の様子や人々の生活、文化等への関心を高める環境づくりを進める。

## 3 Growth: 一人ひとりの成長を支え、生涯学び続ける力を育成する

- (1) スクール・コミュニティによる連携・協働の充実
- (2) 児童が生き生きと学び、活動する教育環境の整備

### ① 積極的に学校の情報を発信し、PTAや地域等との情報共有を図る

- ・学校Webページや学校だより等、積極的に学校の情報を発信するとともに、諸会議や懇談会等、PTAや地域等との情報共有を図る。
- ・保護者アンケートや学校評議員連絡会並びに学校関係者評価委員会等、保護者や地域の意見を積極的に取り入れて、よりよい学校づくりを推進する

### ② SSN（スクールサポートネットワーク）を活用し、地域ぐるみの学校支援体制を生かした教育活動を推進する

- ・PTAや地域と協働して、あいさつ運動やチャレンジスクール等の活動を推進する。
- ・保護者や地域のボランティア及びサポーターと連携・協働して、学習支援、学校安全、環境整備の充実を図る。
- ・PTA行事を協働して推進し、青少年育成会や地域の行事に積極的に協力する。

③ 地域に開かれた教育課程を実践し、地域をフィールドとした生涯学習の基礎づくりを推進する

- ・地域探検や地域施設の見学及び利用等、地域に出て、地域の人や場所と関わりながら、学びを深める授業を積極的に実践する。
- ・地域人材の活用を促進し、地域講師による授業や地域の人と触れ合う活動の充実を図る。
- ・地域清掃等の青少年赤十字活動を通して、地域社会への貢献や奉仕・福祉への関心を高める指導の充実を図る。

④ 芝生の校庭や学校施設、美しく情報豊かな校内掲示の整備等、児童の活動や学びを支える環境づくりを推進する

- ・芝生ボランティアや教育委員会等と連携し、校庭の芝生の維持・管理に努め、運動遊びやピクニック給食等、芝生の有効活用を図る。
- ・老朽化した校舎等の整備に努め、安全で美しく、潤いのある環境づくりを推進する。
- ・美しく情報豊かな校内掲示に努め、感性や知性を育む環境づくりを推進する。
- ・「黙々、テキパキ、隅々」と「境目の1メートル」を意識した清掃活動を実践して、児童自身がよりよい環境づくりに取り組む態度を養う。

⑤ 健康、安全、衛生の管理を徹底し、児童が健康で安全に活動できる環境づくりを推進する

- ・学校医や学校薬剤師等との連携を密にして、健康や衛生の管理徹底を図る。
- ・学校給食の衛生、安全管理を徹底し、食物アレルギーや食中毒等の事故防止に努める。
- ・やだっ子見守り隊や警察等と連携した交通安全や防犯活動の充実を図るとともに、施設設備等の定期点検等安全管理の徹底を図る。

**教職員のチーム力を発揮して、「3つのG」を推進する**

- (1) 教師十戒を肝に銘じ、「やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめて伸ばす 谷田の教育」の充実 ~教育に当たる者として、児童をよりよく育てるために~
- (2) 全体の奉仕者としての自覚をもち、「迅速、誠実、適切、アフターケア」「思いやりの報連相対確と協働共励」の実践 ~全体の奉仕者として、対応能力と組織力を発揮するために~

- ① 教育への強い使命感をもって「迅速、誠実、適切、アフターケア」を徹底し、機動力ある組織体制を維持・継続して、児童の生命と人権、健康と安全を守り、安心安全な環境の中で教育効果を高める
- ② 「報告・連絡・相談・対応・確認」を徹底し、個人や一部のメンバーで抱え込むことなく、常に信頼関係に立つチーム力で問題や課題の解決にあたる
- ③ 校内研修とOJTを通して、教職員一人一人が教育公務員としての自覚を高め、専門性と実践力を磨く
- ④ 教職員が心身の健康を損なうことのないよう業務の質的改善を図り、限られた時間の中で児童にとって必要な指導を適切に行うことができるようにする